

平成24年度公益財団法人国際エメックスセンター事業計画

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

II 事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第10回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）の開催準備等

1) 趣 旨

人類共通の財産である閉鎖性海域の恵沢を次世代に継承していくことが大きな責務であるという観点から、世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）を開催してきた。また、会議は、世界のNGO、市民、科学者、企業関係者、行政担当者等が一堂に会する国際的・学際的な情報の交流の場及び新たな取組みの提案の場として開催してきた。会議の成果は宣言としてまとめられているが、継続的に会議を開催し、これらの成果をさらに発展させていくことが求められている。

2) 経 過

エメックス会議は、平成2年（1990年）に第1回会議が神戸で開催されて以来、世界各地で開催されている。平成23年（2011年）8月にアメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市で開催された第9回エメックス会議（EMECS9）において、第10回会議は平成25年（2013年）秋にトルコにおいてMEDCOAST（地中海沿岸環境国際会議）とのジョイント会議として開催することとした。

○第10回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS10-MEDCOST2013)

- ・開催予定時期 平成25年(2013年)10月～11月（予定）
- ・開催予定場所 トルコ南部エーゲ海沿岸地方（予定）

3) 事業内容

①EMECS10-MEDCOAST2013ジョイント会議の開催準備

- ・EMECS10-MEDCOAST2013の成功に向けて、開催テーマやセッション構成、会議運営等について、科学・政策委員会の助言を得て、MEDCOASTと共同で作る国際組織委員会やプログラム委員会等関係機関において

協議するとともに、調整を図っていく。

- ・日本からもより多くの関係者が参加するよう、逐次広報に努める。

② EMECS11等の開催検討

第11回エメックス会議（EMECS11）については、これまでに開催実績のない新たな開催地開拓の視点から、開催候補地としてロシアを中心に検討を進めている。引き続き科学・政策委員会と連携を図りながら、開催に向けて関係機関と調整を行っていく。

また、第12回エメックス会議(EMECS12)以降の開催についても、科学・政策委員会と連携を図りながら、開催適地を選定していく。

③ 科学・政策委員会の開催

前記①②の検討・調整を図るため、6月中旬に神戸で科学・政策委員会を開催する。

イ エメックス活動の推進

国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、エメックス活動のPRを行う。

ウ エメックス国際セミナーの開催

海外における閉鎖性海域の環境保全の取組状況について、県民、企業、行政機関等に最新情報を提供するとともに、海外関係者との情報交流の機会を提供するため、科学・政策委員の来日機会等をとらえ公開セミナーを開催してきた。

平成24年度は、EMECS10においてテーマになることが有力視されている「ICM（統合的沿岸域管理）」と、エメックスセンターがこれまで世界に情報発信している「里海」との共通点を探りながら、EMECS10に向けてのプレイベントとして開催する。

- ・開催予定時期 平成24年(2012年)6月頃
- ・開催予定場所 神戸市内
- ・テーマ（予定） ICM(統合的沿岸域管理)と里海

エ 国内外機関との連携

① PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）等との連携

平成20年（2008年）に非政府パートナーとして加入したPEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）やエメックス会議への参画実績があるLOICZ（沿岸域における陸地－海洋相互作用研究計画）との情報交換等を進め、海外機関との連携充実を図る。

特に、当センターは従来から里海概念の国際的な普及に向けた情報発信を行ってきたことから、PEMSEAが7月に韓国で開催する東アジア海域会議（EAS Congress 2012）において、関連するワークショップに科学・政策委員

会委員等が参加し、里海・里山の一体的管理やそこからもたらされる生態系サービスの重要性等に関する発表を行うとともに、関連する展示等を行う。

② ECSCA(河口域・沿岸科学学会)との連携

2006年の第7回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS7)において会議を共催したヨーロッパの科学者を中心としたECSCA(Estuarine Coastal Sciences Association)の第50回会議が開催されることから、当センターの科学・政策委員会委員の出席や出展等により連携を図る。

- ・開催予定時期 平成24年(2012年)7月(予定)
- ・開催予定場所 イタリア・ベニス市内(予定)

オ 調査研究事業

① 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域における環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図る。

② ICM(統合的沿岸域管理)の実体化と里海の役割等に関する調査研究

日本における沿岸域の総合的管理については、海洋基本法により規定されているが、実施面においては個別の管理目的ごとに制定された個別法による部分的管理の集合体として沿岸域の管理が行われてきたことなどから、なかなか進んでいないのが実情と考えられる。このため、これまで当センターが取り組んできた「里海国際ワークショップ」の成果等を踏まえるとともに、里海活動やICM等の国内及び国際的な知見・情報を収集、解析し、日本における沿岸域の総合的管理において里海づくりが果たす役割や海外の優良実践事例等について調査研究し、情報提供することにより、日本における沿岸域の適切な管理や環境保全に係る施策の推進に資する。

本事業は、平成24年度から3か年とし、概ね次のとおり進める。

- 平成24年度 国内及び国際的情報の収集及びレビュー
- 平成25年度 補完調査、取りまとめ(中間報告)
中間報告の公表と意見募集
- 平成26年度 意見集約、補完調査、最終とりまとめ(最終報告)
情報発信

2 情報収集整備活用事業

ア 情報収集・提供システムの運用・管理

閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関する情報提供・情報交流基盤としてインターネットを活用し、ホームページ(日本語・英語)の運用・管理を行う。

また、内外の関係者が、閉鎖性海域に関する水質等の環境データや社会経済データ等の情報検索を容易にする「閉鎖性海域環境情報システム」の運用・管

理を継続して行う。

イ エメックスニュースの発行等

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュース」を年2回発行する（日本語・英語）。

また、メール配信システム（メルマガ）を利用して、情報のタイムリーな提供を行う。

3 人材育成・普及啓発事業

ア 開発途上国の行政官への統合的水環境管理研修（国際協力機構JICA受託）

我が国の閉鎖性海域における環境保全の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「沿岸域・内海およびその集水域における統合的水環境管理研修」を実施する。

・研修実施予定時期 平成24年(2012年)9月～11月頃（約2ヶ月間）

イ 海の環境学習人材育成事業

地域団体等を対象とした海の環境学習活動を推進するため、関係機関の協力を得て、御前浜の人工浅場や尼崎港内の人工干潟等を活用し、講義や生物観察会を実施する。

ウ 環境イベントへの出展等

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル等各種環境イベントに出展を行う。